

岩手教区報

第337号
 立教184年1月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3-40
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



主事・布教部長 鈴木真彦

「全教一斉ひのきしんデー」 90周年に向かって

昨年の立教183年は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、人類の生活様式が変わったともいえると思います。新生活様式として身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いと、今までにない窮屈な生活が求められており、教内でも今まで普通に行われてきたことが出来なくなりました。

緊急事態宣言中は本部神殿内への参拝規制、月次祭は神苑への立ち入りも制限されました。今年も5月まで、月次祭の殿内での参拝は代表者のみと発表されており、また、本部での行事も昨年はほとんど中止となりました。教内行事として「全教一斉」と冠がついている「ひのきしんデー」「にをいがけデー」は中止ではありませんが、教区、支部など大勢での活動は実施出来ず、教会、また個人単位での実施となりました。

さて、この「全教一斉ひのきしんデー」は、今から89年前の昭和7年5月18日、「全国一斉ひのきしんデー」として、天理教青年会及び婦人会の提唱により実施されたのがその始まりで、それ以来毎年実施されましたが、第2次世界大戦中一時中断し、昭和21年に復活しました。

また、昭和34年頃からは、日本国内に限らず、海外各地の教信者も共に活動するところから、「全国」が「全教」という言葉に代えられました。そうして、50年以上にわたって、5月18日に行なわれてきました。が、生活習慣が変化してきたことなどを考慮し、また、皆が参加しやすいようにと、昭和62年から「5月中旬の日曜日」に、さらに平成17年からは祝日に当たる4月29日の「みどりの日」に「昭和の日」に変更されました。

この活動は、日々親神様から身体をお借りし、使わせていただけることへの感謝の心から行うひのきしんを、この日に集結して行う全教の統一行事であり、その姿は地域における大きなにをいがけとなります。

この「全教一斉ひのきしんデー」は、来年、提唱90周年を迎えます。今はまだコロナ禍であり、これまでのような活動は出来ないかもしれませんが、皆で知恵を出し、練り合って、十分に感染対策を行えば実践することは可能だと思えます。

90周年の節目に上からも、岩手教区全教会のようによく、信者さんと共に、報恩感謝の心でひのきしんを実践致しましょう。

「丑年を生きる」



令和3年の今年は丑年。丑年は動物の牛にちなんで、私の知友は、年賀状に「牛の歩みのよし遅くとも行かば千里の果ても見ん」という句を詠んだ。牛歩の如く、たとえ歩みが遅くとも、教祖のひながたを求め、大地を踏みしめ歩むならば、遙か千里の道も到達出来るだろう、という意味なのか？

今年はまだ、十干十二支では、辛丑の年である。暦の運氣によれば、現状を打破する年となるようだ。昨年は、世界中が新型コロナウイルスの感染拡大に翻弄された年だったが、今年も一日も早く感染が終息し、安寧な日常を取り戻せるよう祈り続けたい。

一方、危機的状況にある社会の成り行きが良き方向に革新されるには、妥当な

指導、統制に従わねばならない年になる。又、十二支では、丑年の丑は「はじめ」とも読み、新しい事を始める意味があるという。更に、丑は紐にも通ずる故に細い糸を沢山東ね合わせ、強い紐にして物をゆわえる意味がある故、今年こそ世界が一つに協調、結束して明日に向かって難局を乗り越えねばならない年になる。

さて、親神様のご守護の理をかぐらぶとめの方位から悟れば、今年も北東の「たいしよく天のみこと」のお働きが顕著な年となる。つまり、身の内では出産の時親子の胎縁を切り、出直しの時息を引き取る世話。世界では切る事一切の守護とある。切るとは一見避けたいものだが、切る理はつながり理と二つ一つである。つまり、切つてつながるのである。病の根が切れ、悪因縁の根が切れ、コロナの根もやがて切れて陽気ぐらしにつながる事である。

この世は生と死と、つなぎと切ることの繰り返しで永遠の前進がある。死がなければ誕生もない。息を引き取り、いのちが切れた瞬間から新たな生命、再生の節目が出直しという出発点である。惰性或腐れ縁を断ち切り、時句の成人をするには、今の自分を切り替える自己決断、

思い切りが大切であり、本年こそ仕切つての実行が肝心な年と思われる。



行事中止のお知らせ

1月に予定されていた「祭儀式勉強会」は、中止となりました。

行事予定

- 16日 主事会(9時)
- ” 役員会議(10時)
- ” 予算地方委員会(役員会議後)
- ” 教区小史編集委員会(14時~17日)
- 19日 学生担当委員会例会(19時)

【1月分】



道友社

「東北ブロック社友研修会」

開催報告

東北ブロック社友会は11月29日、盛岡市内にて「立教183年東北ブロック社友研修会」を開催した。東北ブロック内の教区より、道友社社友など24人が参加。岩手教区からは12人が参加した。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、直前まで開催の是非が検討されたが、考え得る十分な対策を講じての



開催の運びとなった。マスクは勿論、随所で、こまめな手の消毒や十分なソーシャルディスタンスの確保などを徹底し、例年にならない緊張感の中での研修会となった。

講師の本部員 西浦忠一・前社長は「コロナ禍における道友社、並びに教会本部の情報発信」と題して講話に立たれ、コロナ禍でおちばへ帰れないようばく信者への情報発信の様子や、WEBの利用頻度の上がり具合、更には天理時報創刊90周年記念出版となった中島みゆきさん(歌手、洲本大・統北分ようばく)の詩集『40行のひとりごと』の発行と販売にまつわる不思議なご守護のエピソードなどが体験談を交えて述べられ、東北の社友の奮

起を促された。

質疑応答では、教区・支部社友の活動の問題点や課題、更には今後の出版活動に対する要望など、活発な質問と発言が相次いだ。



災救隊

「支部幹部研修会」

実施される

教区災救隊(佐藤一三隊長)は、去る11月13日、教務支庁を会場に「支部幹部研修会」を実施、隊員ら9人が参加した。

正午に集合し、窓ガラス拭きや換気扇、エアコンの清掃など、庁舎の環境美化に励んだ。

その後、来年度の行事予定について話し合いが持たれた。



厚生部

「里親研修会」【2月2日】

天理教里親連盟より、現在教内の里親登録者641世帯を、2年後の連盟創立40周年までに、1千500世帯に増やしたいとの目標が打ち出されました。

その啓蒙の上から、各教区にて「里親研修会」を開催して頂きたいとの要請を受け、教区厚生部(佐藤一三部長)では、左記要項で開催させて頂くことになりました。里親登録者はもとより、今後、登録を考える方、関心をお持ちの方は、この機会に是非ご参加下さいますようお願いいたします。



学生担当委員会

「春の学生行事」について

「立教184年春の学生おぢばがえり」は、例年のような団参は行わず、個人やグループでの帰参となります。

期日など要項は、来月号にてお知らせ致します。

また、3月に「大学卒業生の集い Joyous Style1」が、3回に分かれて開催されます。申込受付は1月5日から31日までとなっております。詳細は、先月教会に配布の文書もしくはホームページを参照ください。



献血推進委員会

「献血呼びかけひのきしん」

実施報告

岩手県赤十字血液センターより献血呼びかけの依頼をうけ、12月5日(土)イオンモール盛岡南店にて、呼びかけひのきしんを実施し、3人が参加した。

一日の献血者が30余名と少なく、新型コロナウイルス感染症の影響をひしひしと感じました。血液センターの担当者も、急な手術や血液製剤の供給に支障が出ないか心配されていました。

「献血も立派なひのきしん」。献血者に対し感染対策をしっかりと行っているのに、献血のご協力と呼びかけひのきしんをどうか宜しくお願い致します。

2月6日(土)には「バレンタイン献血」が実施されます。

献血状況
2020/12/28

400mL 200mL 成分献血

A型	非常に困ってます	♥
O型	非常に困ってます	♥
B型	非常に困ってます	♥
AB型	非常に困ってます	♥

岩手県赤十字血液センターHPより

with コロナ
立教184年
春の学生
おぢばがえり
一次代を担うようばくへ

道の学生
おぢばがえり推進期間
■期間 立教184年(令和3年)2月1日(月)～2月21日(木)
○感染防止対策として、個人や少人数での、おぢばがえりを行います。
○1年間のおぢばがえり、おぢばがえり推進期間中は、おぢばがえり専用バスが運行します。
○詳細は教区・道高学生担当委員会にお問い合わせください。

道の学生
オンラインの集い
■期間 立教184年(令和3年)3月22日(日)10:00～
○オンラインは動画配信(有料あり、視聴)を行います。
○詳細は3月上旬頃にWeb(Happy1)に掲載します。

主催 / 春の学生おぢばがえり実行委員会・天理教学生担当委員会

日時 立教184年2月2日(火)
13時30分～15時

場所 岩手教務支庁

内容 ビデオ上映、講話(本部講師)、質疑応答

申込 支部で取りまとめ1月末まで